

出題のねらい 〔総合型選抜〕

中村学園大学〔栄養科学部 フード・マネジメント学科〕

【論述試験】

〈出題のねらい〉

栄養科学部フード・マネジメント学科は、理系科目の食品科学・栄養科学の知識を基礎として、食ビジネスに貢献できる人材養成を主目的とする文理融合型の学科である。

総合型選抜の論述試験では、提示された「食と環境」に関する文章および図表が示す情報を正しく理解し、それらの情報を、フード・マネジメント学科での学びに必要な「食を取り巻く環境への興味関心・課題意識」と結び付けて自身の考えを展開し、且つ、その内容を体系的に適切な表現を用いて記述する出題方式とした。

出題は、近年の環境問題および人口と食料問題に関連した昆虫食に関する内容で、牛肉や豚肉に関する問題の所在と、その問題に対応できる代替食品としての昆虫が持つメリット、および、昆虫食を普及させる上での問題点などを文章および図で示して各設問に対応するかたちとした。

問1は、提示した文章の指定空欄部分について、図の内容を適切に説明できている記述を選択するもので、図の内容を正しく読み取ることが文章情報の理解を深め、続く設問への解答につながる。

問2は、文章および図表から、昆虫食のメリットを3点抽出して端的に説明できる要約力を測るもので、ここでの理解は続く設問に対する記述を制限時間内で簡潔にまとめることに寄与する。

問3は、提示されている文章や図表、並びにコラムの情報を活用しながら、地球温暖化に及ぼす影響が大きい温室効果ガスの問題、人口増加と食料価格上昇に関する問題などを整理して、その問題への対応が期待できる取組みとしての昆虫食、および昆虫食を普及させる上での問題点をコラムから読み解き、その問題点への対策を含めた解答者自身の考えを論理的に展開することを求めている。記述内容が環境または人口・食料問題のいずれか特定部分のみに着目した解答であっても、提示されている情報に基づいて「自分自身の考え」となる対策が導かれていることが重要である。提供された情報を正しく理解した上で、平素からの「食を取り巻く環境への興味関心・課題意識」と結び付いた考察となっているか、以下の視点から評価した。

文章読解力：問題文が正しく読み取られていることが解答の内容から伺えるか

数学的リテラシー：図中のデータが正しく読み取られて解答に反映されているか

論理的思考力：解答全体が論理的に構成されているか

文章・表現力：誤字脱字がなく正しい日本語で解答者の考えなどが適切に表現されているか

独自性・新規性：昆虫食普及の方法について、独自の発想によって読み手の興味を惹く内容があるか

〈模範解答例〉

問1 ① (b) ② (d)

問2 メリット・その1：温室効果ガス排出量が低く環境にやさしい (19字)

メリット・その2：ヒトの食料として栄養価が高い (14字)

メリット・その3：家畜の安価な飼育が可能 (11字)

問3

近年問題となっている地球温暖化に及ぼす影響が大きい温室効果ガスのうち、家畜から放出されるものが高割合を占めていること、私たちの重要なタンパク質源である牛肉や豚肉を生産するために必要な家畜の穀物飼料の価格は国際的に今後も上昇すると考えられ、その価格上昇は牛肉や豚肉の販売価格にも反映されることなどから、従来の家畜に代わる食料を検討することは重要である。昆虫食は、温室効果ガス排出量が低く環境にやさしい、ヒトの食料として

栄養価が高い、さらに、家畜の安価な飼料になり得るといったメリットがあるため、その需要を増やすための取り組みには大きな意義があると考えられる。一方で、ある調査では、牛肉や豚肉といった従来の畜産に依存したタンパク質供給では急増する世界人口を支えきれなくなる「タンパク質危機」について内容まで理解していると回答した人は1割程度であり、昆虫食に対して「気持ち悪い」という印象を持っている人は4割を超えていた。

こうした状況を踏まえ、環境問題や人口と食料の問題に関する人々の理解を深め、昆虫食がそれらの問題にいかに対応できるのかの情報をより広く発信する必要があると思われる。また、昆虫食の普及には、気持ち悪いイメージを減らし、栄養もあり美味しいものであるというイメージに変えることができるよう、昆虫そのものの形をとどめない商品開発やパッケージの工夫などを行うことが効果的だと考える。(594字)